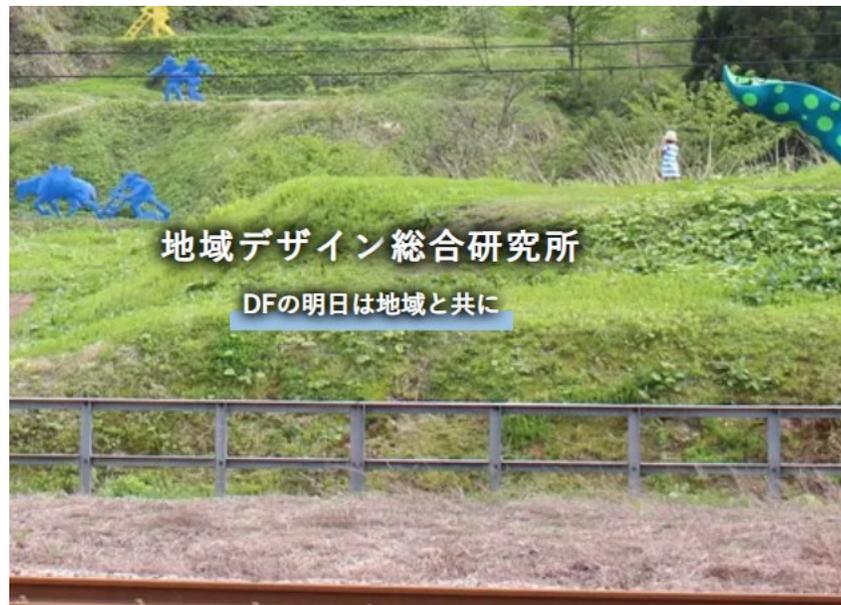


地域デザイン総研の運用

保坂 洋
藤村峯一

目的：ホームページより



DFは20周年を終え、**"Next 10 Years"** の新たな活動フィールドとして「地域への社会貢献活動」に挑戦します。

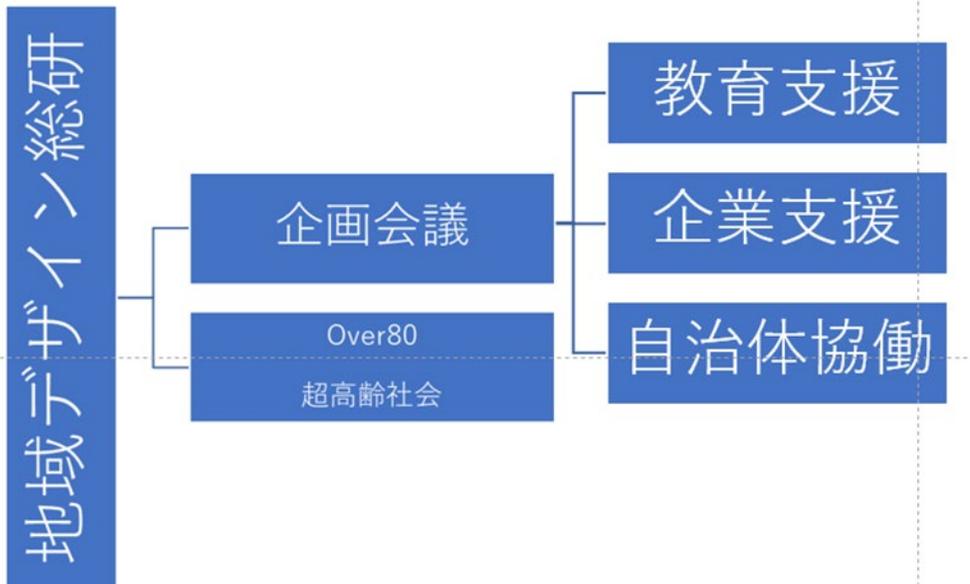
シニアである我々自身が今日に至るまでに受けてきた様々な「恩」を改めて認識した上で、子供たちや次の世代に**「恩送り」**として引き継いでいく責任があると考えています。

地域の人々や子供たちが安心して、希望を持てる社会を実現したいという想いです。

この活動はDFの**社会貢献の幅を更に広げ、また多くの会員がこれに参画する**ことによって、DFの更なる活性化、魅力化にも資すると確信しています。

この活動は**シンクタンクとしての活動**を考えており、現在ある「百歳社会総合研究所」を「地域デザイン総合研究所」と改称して取り組みます。

組織・体制



柏市豊四季台地域における高齢社会対応のまちづくり総合研究



秋山 弘子 ▶

未来ビジョン研究センター 客員教授
 東京大学名誉教授
 高齢社会総合研究機構客員教授
 専門:老年学



辻 哲夫 ▶

未来ビジョン研究センター 客員研究員
 専門:在宅医療、ケア政策、社会保障政策

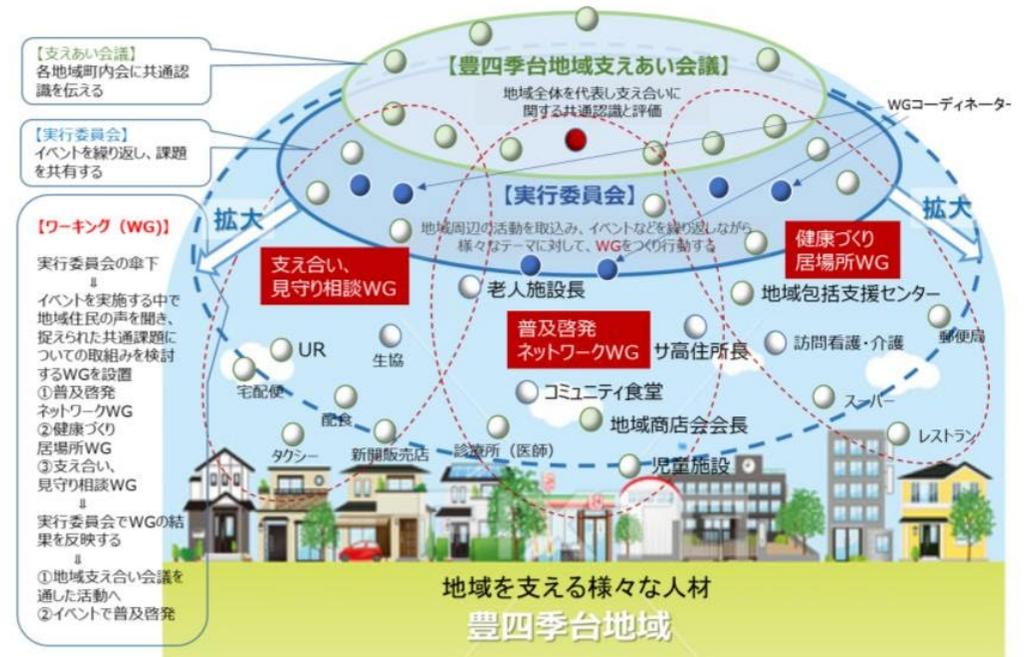


辻氏の懸案

100歳社会になると地域のネットワークが非必
 会社生活の後どうする？
 地域との結びつきを会社員の時から
 例えば副業の1つを地元化



図8 豊四季台地域支えあい会議の体制イメージ



出典: 東京大学高齢社会総合研究機構作成

鎌倉市教育改革参画へのチャレンジ

へ —
ん し ん



見える世界が変われば
いつのまにか変身しているかも
きっかけは君の中に！

かまくらULTLAプログラム

子どもたち一人ひとりに、自分らしい特別な学び方があります。

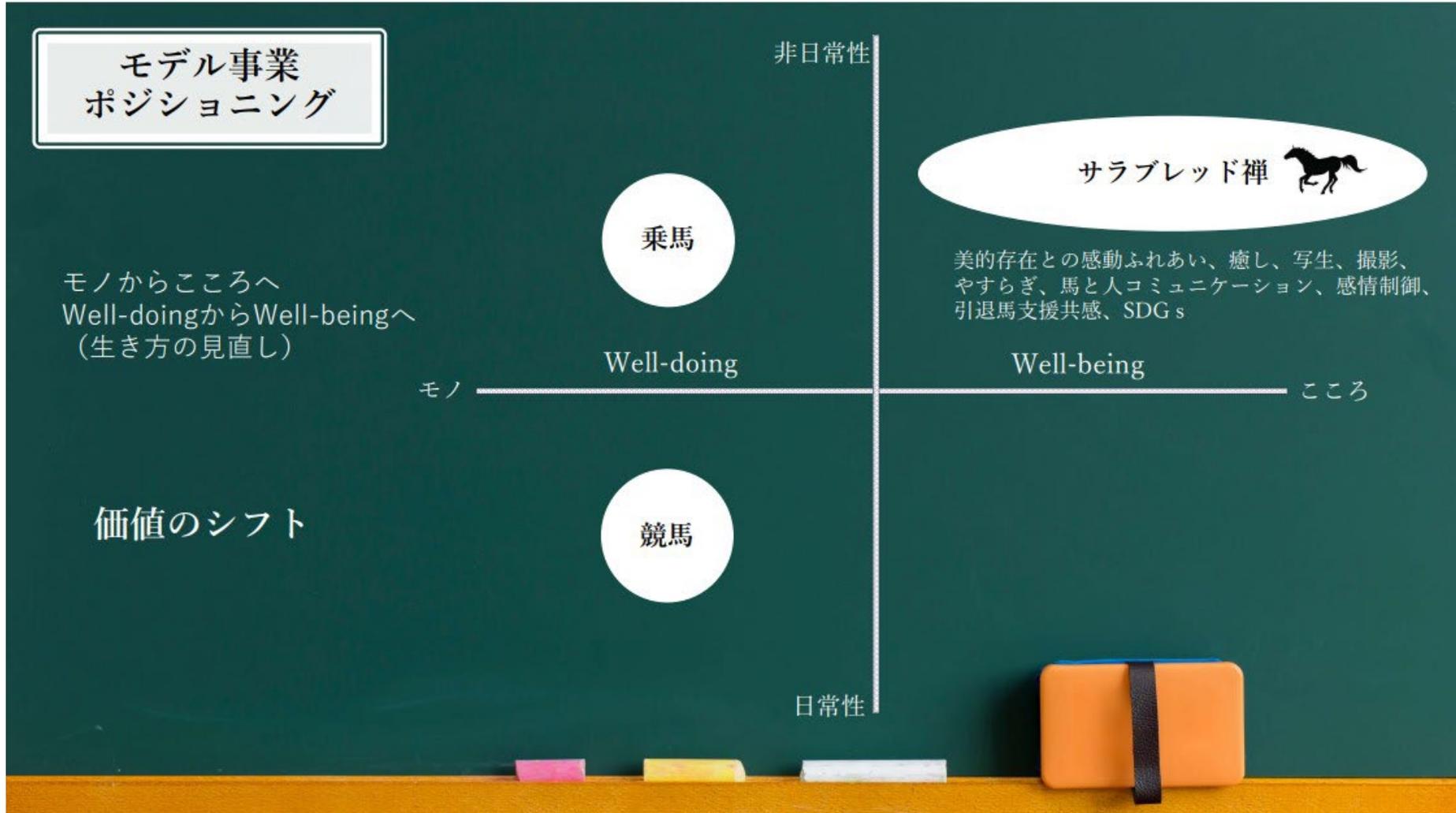
すべての子どもたちが、ユニークな学びを花開かせていく世界

そんな世界をつくりたくて、「かまくらULTLAプログラム」は動きだします。

馬の街北杜市（山梨県）

競馬引退馬を活用したホースセラピーを目指した活動

主催者：松久久也氏（人生100年社会デザイン財団監事）と協調



つくば市との連携の可能性

1. 茨城県つくば市の特徴

- ・人口 25万人（外国人150か国から1万2000人）
- ・令和4年3月に**スーパーシティ型国家戦略特別区域として指定**される

【スーパーサイエンスシティ構想概要】

◆構想概要

『デジタル技術を市民のために使う』、『住民とともに創る』という基本的な考えの下、「移動・物流」、「行政」、「医療・健康」、「防災・インフラ・防犯」、「デジタルツイン・まちづくり」、「オープンハブ」の分野で**先端的サービスの実装実験**が行われている。

（具体例）

- 【移動・物流】パーソナルモビリティ・ロボットの導入、ドローンによる荷物の自動配送
- 【医療・健康】マイナンバー等を活用したデータ連携による健康・医療サービス（筑波大病院）

◆推進体制

- ・つくば市スマートシティ推進本部（意思決定）、つくば市スーパーシティアーキテクト会議
- ・つくばスマートシティ協議会（民間企業など52機関の会員で構成）⇒ **DFも参加可能**
- ・筑波大学（スーパーシティ全体構想に参画）

<写真等出所> つくば市資料

（実装実験具体例）

【移動・物流】

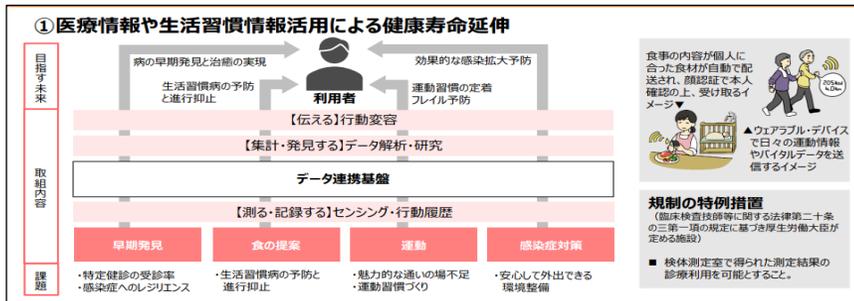


自動運転によるコミュニティ・モビリティ



規制の特例措置
（道路交通法等）
 ■ 荷物搬送ロボットについては、原動機を用いる歩行補助車と同様に、歩行者の範囲に含めること。また、同法上歩行領域において当該荷物搬送ロボットの無人自動走行を可能とすること。なお、当該荷物搬送ロボットについては、道路運送車両法の適用除外とすること。等

【医療・健康】



2. つくば市の課題

- 「**データ連携基盤**」の活用
- **3Dシミュレーション**の活用
- 市民のうち**研究者は2万人、毎年数百名が定年退職**。（活躍の場の提供）
- 体験型科学教育事業「つくばSTEAMコンパス」
- キャリア教育、等

3. DFとしての連携の可能性

- ・つくば市の課題を解決する技術・サービスを提供できる**企業・人材の紹介**
 - データ連携基盤 ⇒ FSTネットワーク社

株式会社ミンカブソリューションサービシーズ

- ・**理科実験**（つくば市教育局やSTEAMコンパスとの連携）
- ・**キャリア教育**
- ・企業支援活動（筑波大学からスタートアップ企業が400社生まれている）
- ・つくば市のシニア活動の場の提供（DF活動の紹介による会員獲得）
- ・退職研究者の方々へ、未来ワークスへの登録紹介
- ・「**つくばスマートシティ協議会**」への参加の検討（10万円/年）

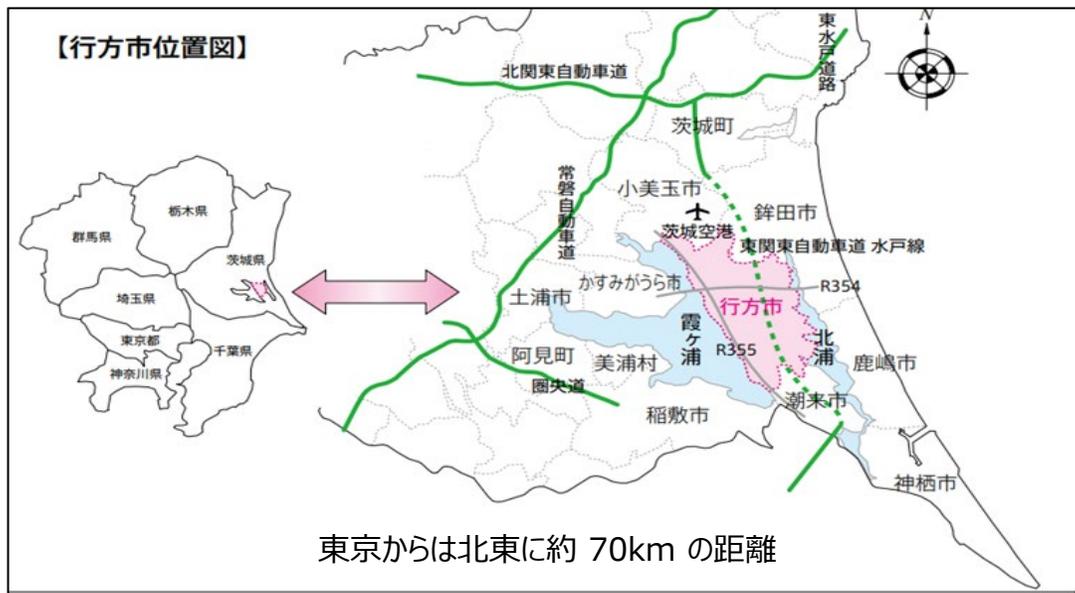
4. 連携の検討進捗

- ・つくば市の連携交渉の窓口：**つくば市科学技術戦略課**
 （スーパーサイエンスシティ構想の事務局）
- ・DFとして支援・連携可能な分野について提案済み（10月17日）
 ※現在、科学技術戦略課の検討結果を待っている状況

行方市との連携の方向と検討状況

1. 茨城県行方市の位置と特徴

- ・人口 30,656人（2023年4月）
- ・平成 17 年 9 月に麻生町、北浦町、玉造町の3町が合併して行方市が誕生



- ・霞ヶ浦と北浦という観光資源に隣接し、霞ヶ浦沿いに温泉も持つ。
- ・市役所の麻生支所には、スタジオがあり、毎日12:00-12:45で生放送も地上波で発信。
- ・課題は、高齢化と人口減少。市としては、工業団地への企業誘致を進めている。



霞ヶ浦の眺望



小学校跡地に作られたレストランと土産物店



市が運営するスタジオ

2. DF関係者が見る行方市の課題

- 人口はこのままでは減少止まらず。若年層は東京の学校へ行くと帰らず。
- 基幹産業は農業。水辺は、ウォータースポーツ等が可能だが未開発。
- 市は、北浦工業団地への工場誘致をすすめたい。
- 学校跡地の利用を促進したい（サテライトオフィス、物流センター等）
- 街は繁華街がなく商業集積はベイシア、カインズホームなどのSC、道の駅。
- 観光開発、産品の首都圏拡販、ワーケーション開発などの可能性

3. DFとしての連携の可能性

1. 小中学校に対する「理科実験」出前授業（行方TV放送の活用も）
2. 高校生に対する授業の提案
3. 企業支援
4. 霞ヶ浦等の資源を活かした観光事業の提案(観光立国研究会との連携)

4. 連携の検討進捗

- ・行方市の連携交渉の窓口：**行方市企画部事業推進課**
同地域開発プロジェクト統括Mgr ウルジ氏

- ・DFとして支援・連携可能な分野について提案済み（10月1日）
※現在、企画部事業推進課の反応を待っている状況

島根県隠岐の島「海士町（あまちょう）」

様々な工夫で、若い移住者も増え、活性化に成功
ロールモデルとして情報交換、協業テーマに挑む



会員参加

1. 事務局主催 地域ブロック会議

各地域会員の交流から生まれる何か

2. 会員向け勉強会（セミナー）

- 第1回（牧野 篤）12月8日（金）
- 第2回（朝倉会員）1月19日（金）
- 第3回（熊坂俊彦）2月15日（木）
- 第4回（山本尚史）3月 7日（木）
- 第5回（牧野 篤）5月16日（木）

3. 実プロジェクト発足時の募集

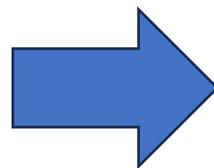
4. HPなどコミュニケーション活動

時間	次第	備考
15:00 ~ 15:15	代表挨拶・地域デザイン	段谷・藤村 10分+質疑
15:15 ~ 15:30	NSGによる新潟地域の事業展開	平尾 10分+質疑
15:30 ~ 15:45	北杜市での地域デザイン	市古 10分+質疑
15:45 ~ 16:00	授業支援の会（沼津高校）活動	佐戸井 10分+質疑
16:00 ~ 16:15	軽井沢と安曇野	坪井 10分+質疑
16:15 ~ 16:30	理科実験（伊豆&遠隔地）活動	戸田 10分+質疑
16:30 ~ 16:45	甲斐・越後の絆	武田 10分+質疑
16:45 ~ 17:00	本部・部会研究会・同好会の紹介	小林 10分+質疑
17:00 ~ 18:00	懇親会（各自紹介）	事務所

- 第1回 北海道・東北
臨時 北陸
- 第2回 中国・四国
- 第3回 甲信越・静岡
- 第4回
- ・
- ・

企画段階から実施への移行イメージ

候補案の提案検討
企業・教育・公共自治体
等からの提案
具体的には
行方市、つくば市、北杜市



実施可否決定機関

- ・ 地域にとっての意義
- ・ DFにとっての意義
- ・ 投資採算
- ・ 実施体制



プロジェクトチーム登録

- ・ メンバー公募他
- ・ フォロー体制

- 八幡平市のホースケア⇒マッシュルーム栽培の事例
- みらいワークス福島プロジェクト

研究的な要素

- 牧野教授からDFで対応できそうな課題を貰い会員へ展開
- 例：恩送りGoogleフォームでアンケート調査
 - あなたはだれからどんな恩を受けましたか？
 - 誰にどのような恩を送りたいと思っていますか？
 - 注) 場合によっては若者からは迷惑になる可能性もある